

発表者氏名：	藤原 一絵
所属学校：	小学校
派遣職種：	市教育局員（青年海外協力隊、平成9年度）
派遣国：	ボリビア
派遣先：	リベラルタ市 教育局

タイトル：	個人の力を生かすネットワーク
キーワード：	還元 ネットワーク
発表要旨：	

9年度1次隊で協力隊に参加した。当時は市内のある小学校で勤務中だったが、国際教育に理解のある教頭の勧めで協力隊を受験した。南米ボリビアにあるアマゾン地帯の小さな町、リベラルタに赴任した。

現地では教育局に配属されたが、政権交代のさなか実質仕事のなかった私は、教育局を出ることにした。その後2年間のプランを自分でたて、活動に至る。現地では音楽教育の幅を広げること、音楽教員の資質を上げることの2つを目標に、市内の全小学校を巡回し、空き時間は教員対象に講義を行った。学校休校期間は教会で青少年対象にリコーダーおよびコーラス指導にあたった。かたわら、現地のギター名人に伝承音楽を教わったり、日系移民100周年に際し日本祭りを開催したりした。OV仲間や現地スタッフにも恵まれた。

平成11年7月、日本に帰国した当初は、OV教員のネットワークが全くなく、誰がOVなのかを知る術もなかった。自分なりのモチベーションで勤務校を中心に、子どもに協力隊の経験から得たものを還元していった。個人的な教材開発や社会科、総合的な学習での協力隊体験談、国際教育に関するクラブ活動などが主である。

しかし昨年度より、京都市教育委員会の声かけからOV教員で集うことができた。話し合いを重ねる中で、OVだけでなく、非OV教員とも協力し、国際教育を京都市教員に広げる必要があるとの視点から、京都市教育研究会の傘下に入り、公認団体として活動することが有効であるという結論に至った。そこで既に存在していた京都市国際理解教育研究会をリニューアルし、研究会名を「京都市国際教育・グローバルキッズ研究会」として今年度4月に立ち上げることになった。

GK(グローバルキッズ)研究会では、年3回の「開発教育実践講座」を始め、海外留学生との交流の場「ワールドフェスティバル」、有志教員による研究授業、「JICA大阪教師海外研修・帰国報告会」(JICA大阪協力)、土曜学習での「出前講座」などを行っている。ネットワークを利用することで、縦のつながり、横の広がりが格段にようになった。

こうしたネットワークを通しての還元活動は日本の教育界にとっても大きな意味があり、それを支えるのは教員一人一人の力であると考えます。



京都市立明德小学校にて、高学年を対象とした「地球っこクラブ」での活動の様子。自分が興味を持っている国について調べ、互いの発表を聞き合います。その他、いろんな国の遊びや、参加型学習なども行います。